

# 令和8年度入学生用カリキュラムマップ

【薬学科】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）								
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					知識		姿勢		行動				
					1	2	3	4	5	6	7	8	
26UPHM1001	初期演習Ⅰ	1	本学で修得すべきことは何かを理解し、自主的に学び新たな発見を導きだせる力を身につけることを目的とする。このため、本学の「立学の精神」および人材育成方針「MUKOGAWA COMPASS」を知り、本学学生としての誇りと自覚を持つ。さらに、MUKOGAWA COMPASSに掲げられた「自ら考え、動く」ための力を培い、女性として有為な社会人となるために、それぞれの学部学科の専門性に基づく知識と社会人基礎力の修得の必要性を理解し、各自のキャリアデザインを自ら構築する。	大学の修学の基礎となる単位制を理解し、適切な履修計画に沿って修学する主体性、考える力を身につけ、人材育成方針「MUKOGAWA COMPASS」と所属学科の3つのポリシーに基づく専門教育の概要を把握し、自らのキャリアデザインを組み立てる力を身につける。また、良識ある社会人となるための社会人基礎力の必要性を理解し、その基盤となる十分なコミュニケーション能力を培い、基本的な社会ルールを理解し、本学学生としての誇りと自覚を身につける。さらに、学習・研究を進める上での倫理の基礎となる情報の取り扱いに関する知識を身につける。	◎		○		○				○
26UPHM1002	初期演習Ⅱ（薬の世界へ）	1	MUKOGAWA COMPASSに掲げられた「自ら考え、動く」ための力を培い、学部・学科の教育目標を達成するとともに、薬剤師としての倫理観、医薬品等による健康被害の発生予防への努力の重要性・必要性について理解する。	前期に開講した「初期演習Ⅰ」で学修した内容を踏まえ、学科のカリキュラム全体の構造を把握し、卒業までの学びと卒業後のキャリアについて考察を深め、専門教育の導入から卒業までの学習の方針や、卒業後の目標を立てる。また、薬害被害等の具体例を学び、その発生予防への努力と、薬剤師として倫理的に行動することの重要性・必要性を説明する。	◎		◎						○
26UPHM1101	Oral CommunicationⅠ	1	「英文法はある程度わかっている、いざとなると英語が話せない」という人は多い。本授業では、英語でコミュニケーションを図る際のフォーマットを確認し、実際に「使う」ことを経験しながら、コミュニケーション能力を養う。	英語の基礎文法などを復習しながら、インタラクティブな授業を通して基本的な会話を行う。	○								◎
26UPHM1102	Oral CommunicationⅡ	1	「英文法はある程度わかっている、いざとなると英語が話せない」という人は多い。本授業では、英語でコミュニケーションを図る際のフォーマットを確認し、実際に「使う」ことを経験しながら、コミュニケーション能力を養う。	前期に開講した「Oral CommunicationⅠ」で学修した内容を踏まえ、英語の基礎文法や語彙などを復習しながら、様々な場面での基本的な会話を行う。	○								◎
26UPHM2103	基礎英語	2	専門分野の数式や専門用語を英語で理解する際に、日本語に多くあるカタカナ言葉が障害となることが多い。本科目では、専門分野の英語表現について、正しい発音と話し方を修得する。	科学技術分野でよく出てくる数式や記号の読み方、実験器具の説明などを、英語で理解し、表現する。				○					◎
26UPHM2104	英語Ⅰ	2	専門分野の言語使用を把握するため、専門用語の成り立ち、文章の構造、情報提示の様式等についての基本的事項を修得する。	比較的平易な専門文書、科学技術に関する新聞、雑誌等の英語を日本語に訳さずに理解する。				○					◎

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）															
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目															
					1. 多様な社会を理解する力		2. “生きつなげる” 専門性		3. 自他を尊重する姿勢		4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢		5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢		6. 論理的に考え伝える力		7. 新たな価値を創造する力		8. 多様な人々と協働する力	
					知識		姿勢		知識		姿勢		知識		姿勢		知識		姿勢	
1		2		3		4		5		6		7		8						
26UPHM3105	英語 II	3	専門分野の言語使用を把握するため、専門用語の成り立ち、文章の構造、情報提示の様式等についての基本的事項を修得する。	健康に関する公式通知、政府広告等の英語を日本語に訳さずに理解する。		○										◎				
26UPHM3106	英語 III	3	専門分野の言語使用を把握するため、専門用語の成り立ち、文章の構造、情報提示の様式等についての基本的事項を修得する。	薬学分野における多種類の文書に接することにより、専門英語の文書から必要な情報を効率よく入手する。		○										◎				
26UPHM4107	発展英語 I	4	専門性の高い、一見難しそうな文書も、目的を持って読むことによって理解できる。本科目は、専門分野で英語を日常的に使用するための基本的技能を修得する。	薬学、医療に関する最前線の専門性の高い文章を理解する能力や文献検索能力を身につける。		○			◎							◎				
26UPHM1003	基礎化学	1	薬学を学ぶ上で必要な化学の基礎力を身につけるために、原子の構造から分子の成り立ち、化学結合、代表的化合物、基本的な計算などに関する化学の基本的事項を修得する。	1) 原子、分子、イオンの基本的構造など物質の基本概念について説明する。 2) 代表的な化学結合について説明でき、代表的な化合物の名称と構造を列挙する。 3) 濃度計算、化学反応の量的計算など、化学の基本的な計算をする。			◎				○									
26UPHM1004	基礎生物	1	薬学を学ぶ上で必要な生物学の基礎力を身につけるために、“生命活動の仕組み”に関する十分な知識と、それに裏付けられた“生命観”を修得する。	生命体の基本単位である細胞を構成する成分およびその細胞の成り立ちや機能、細胞の生と死についての基本的事項を修得する。			◎	○												
26UPHM1005	基礎数学・物理	1	薬剤師に求められる専門的知識を在学期間中に計画的に修得していくために、その前提となる数学および物理学の基礎的な知識および技能を修得する。	1) 高等学校の数学を基礎として、薬剤師に求められる必須レベルの数学的知識および技能を修得する。 2) 高等学校の物理学を基礎として、薬学初級レベルの物理学的知識および技能を修得する。			◎													
26UPHM1006	情報リテラシー	1	大学教育に適応し、安全で適切な情報活用ができるための基礎的な情報リテラシーを身につける。コンピュータやネットワークの知識、情報モラルの知識と実践力を育成するとともにオフィスソフトの活用をもとにしたレポート作成の基礎的な技能を確実に修得する。	1) 本学のシステムやオンラインサービスを知り、使いこなす。 2) 基礎的なコンピュータやネットワークに関する知識、情報モラルに関する知識をもち、場面に応じて安全にコンピュータやネットワークを活用する。 3) レポートを作成するために必要なソフトの活用技能を修得し、課題に応じた簡単なレポートを作成する。	◎											◎				
26UPHM1007	薬学ゲートウェイ	1	高等学校での学びを基礎として、それを薬学部での6年間の学びへとつなげるために必要な、科学的なものの見方の基盤を形成する。	薬学を学ぶ上で重要な数学・物理・化学・生物の領域について、高等学校で学んだことから大学における薬学の学びと薬学研究へのつながりを理解する。			◎	○	○											
26UPHM1201	薬学への招待	1	本学で学ぶカリキュラムの構成を理解し、将来、医療を担う薬剤師として社会に貢献できるようになるために必要な心構えを身につけ、生涯にわたって自ら研鑽する使命を認識する。	1) 薬学科のカリキュラムの概要について理解する。 2) 社会や医療における薬学および薬剤師の役割と貢献について説明する。 3) 薬学教育モデル・コア・カリキュラムに記載されている「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」の概要について説明する。	○		◎	◎	◎							○				

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）							
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1. 多様な社会を理解する力	2. “生き残る”につながる専門性	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力
					知識		姿勢			行動		
		1	2	3	4	5	6	7	8			
26UPHM1202	早期臨床体験	1	薬剤師が活躍する現場を体験することで、薬学科学生としての学修に対するモチベーションを高める。また、模擬的な環境で薬剤師の業務を体験することで、これからの学習の意義を理解する。	患者・生活者の視点に立ち、薬剤師の臨床における多種多様な業務内容および医療の担い手としての地域の保健・福祉体制への貢献度を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性および今後の知識・技能・態度の修得の必要性を理解する。	○	○	◎		○	○		◎
26UPHM2301	医療倫理学	2	薬を通して医療に関わるものとして常に社会に目を向け、生涯にわたって医療を通して社会に貢献できるようにするために必要な心構えを身につける。	医療の担い手として、個人の尊厳の保持と生命を尊重する姿勢を崩すことなく、薬剤師が果たすべき役割を理解し、ファーマシューティカルケアを実践する能力を身につける。	○		◎	○	○			○
26UPHM3302	生命倫理学	3	生命の尊厳に関する深い認識を持ち、医療人に求められる倫理観および倫理的問題に適切に対応する判断力と行動力を身につける。また患者と家族の身体的・心理的・社会的背景を総合的に把握して、患者の意思決定を尊重し支援する能力を身につける。	1) 生命・医療に関する倫理観を身につけ、医療人としての感性を養い、様々な倫理的問題において主体的に判断し行動する。 2) インフォームドコンセント、情報共有、共同意思決定の意義を理解し、実践する。 3) 医薬品の健康被害について学び、薬害防止に薬剤師が果たす役割や責任の重大性を説明する。	○		◎	○	○			○
26UPHM2501	医療薬学概論	2	臨床的に重要な症候と臨床検査値の異常について、発現メカニズムを踏まえて、疾患を理解するための基盤とする。また、漢方医学の理論に基づき、現代医学としての漢方療法を理解する。	1) 代表的な症候と関連する病態について説明する。 2) 代表的な臨床検査値と症状の関連性、臨床的意義を説明する。 3) 漢方医学の考え方、疾患の概念を理解し、西洋医学との違いを説明する。 4) 代表的な漢方薬に関して、配合生薬の組み合わせを基に代表的な適応や副作用などの基礎的事項を説明する。			◎		○	◎		
26UPHM2701	多職種連携概論	2	多様な専門職の職能や自他尊重のコミュニケーションについて理解し、良好な相互理解に基づく多職種連携を通じて、患者・生活者に質の高い医療、保健、介護、福祉を提供する能力を身につける。	1) 医療、保健、介護、福祉に関わる他の専門職の職能を理解する。 2) 多職種連携における薬剤師の役割や専門性を理解する。 3) 多職種連携を実現するために、相手の意見を尊重しつつ、薬剤師自身の考えや感情を適切に伝えるためのコミュニケーションを図る。 4) 薬剤師が多職種連携を進めるうえでの障壁や問題点を考え解決策を検討する。	○	○	◎		○	○		◎
26UPHM3702	臨床体験学習	3	医療を担う薬剤師としての自覚を身につけるとともに、多様な専門職の職能や自他尊重のコミュニケーションについて理解し、良好な相互理解に基づく多職種連携の重要性を学ぶ。また、基礎薬学や、薬物治療の基盤となる医療薬学に関わる学修で得た知識を活用し、医薬品の使用方法や治療効果・副作用、使用上の注意事項等を学修する。	1) 体験学習を通して生命・医療に関わる倫理観を身につけ、医療人としての感性を養う。 2) 医療の担い手として必要な知識・技能の修得に努め、自らの資質・能力を高める努力を惜みず行動する。 3) 患者の心理や立場を尊重して、利他的な態度で支援する。 4) 円滑なコミュニケーションを通じて他者と連携する。	○	○	◎		○	◎		◎

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）								
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					1. 多様な社会を理解する力	2. “生きつながる専門性”	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力	
					知識		姿勢		行動				
		1	2	3	4	5	6	7	8				
26UPHM4703	医療現場でのリスクマネジメント	4	医療の質を確保するためにリスクマネジメントは医療現場では重要な項目の一つである。医療現場での薬剤師の業務を理解した上で、医薬品の調剤・投薬の事故事例、副作用への対応、院内感染防止対策などの知識を修得し、医薬品の安全かつ適正な使用を推進する能力を身につける。	薬剤師のリスクマネージャーとして活躍し、薬物療法におけるリスクマネジメントプランが提案できるように、医療事故の原因、リスク回避のための対処方法を修得する。			◎				○		
26UPHM4303	医療コミュニケーション学	4	薬剤師が医療現場でファーマシューティカルケアを遂行するために必要不可欠なコミュニケーションの基礎を理解する。	対人関係に影響をもたらす心理的要因や患者の行動を理解するとともに、コミュニケーションスキルを理解し、患者の気持ちに配慮したコミュニケーションの実践に必要な知識を修得する。	○			◎					◎
26UPHM6502	薬物治療の実際と実践	6	これまでに培ってきた基礎的な知識に加え、実務実習で得た経験・成果を基盤に、臨床での処方提案力、チーム医療における薬学的な介入能力をさらに向上させるため、より高度で臨床的な実践能力を修得する。	1) 代表的疾患の治療ガイドライン等を踏まえ、根拠に基づき、複数の薬物療法の選択肢を提案する。 2) 症例を通じて、患者の検査データやバイタルサイン、病状に対応した適切な薬学的介入の方法を提案する。	○	◎	○	○	○	○	○		○
26UPHM3304	医薬品開発論	3	医薬品開発の仕組み、国内外の状況、薬剤師の役割等を理解し、医薬品の生命や環境への関わりを専門的な観点で把握し、多様かつ高度な医療において適切な科学的判断をする能力を身につける。	1) 医薬品の創製から市販後までのライフサイクルを理解し、非臨床試験、治験などを含む開発過程とその体制について説明する。 2) レギュラトリー・サイエンスの必要性と意義について理解し、医薬品開発に関わる法規制、制度、仕組みを説明する。 3) 代表的な薬害について原因、対策について説明する。	○	◎	○		○	○	○	○	○
26UPHM3305	薬事関連法規	3	患者の権利を考慮し、責任をもって医療に参画できる薬剤師になるため、医薬品医療機器等法、薬剤師法などの薬事関連法の精神とその施行に関する基本的知識を修得する。	1) 医薬品等の供給制度や副作用の救済制度等の基本となる法的根拠に関する知識を身につける。 2) 麻薬、向精神薬等の管理薬の取り扱い等の基本となる法的根拠に関する知識を身につける。	◎	○	○				○		○
26UPHM4306	薬局管理学	4	公平で質の高い医療を受ける患者の権利を保障する仕組みを理解するために、社会保障制度と薬剤経済の基本的知識と技能を修得する。	1) 日本における社会保障制度の仕組みを説明する。 2) 医療保険の成り立ちと現状を説明する。 3) 国民医療費の動向、調剤報酬について概説する。 4) 医薬分業の仕組みと意義を説明する。 5) かかりつけ薬局の意義を説明する。				◎			○		○
26UPHM5307	地域社会と薬剤師	5	薬剤師に求められている社会的使命と法的責任を自覚し、責務を果たすための判断力と行動力をもって、調剤、医薬品の供給、その他薬事衛生をつかさどる専門職として質の高い医療、保健、介護、福祉に貢献する能力を身につける。また、学修を通して地域医療における人・社会と薬剤師との関わりについて認識を深め、変化・多様化する社会に対応した役割を実践できる知識・技能を修得する。	学修した知識（薬剤師としての業務および活動範囲）・技能（医薬品の取り扱い等）・態度（薬剤師としての倫理観および社会的使命）等を総合的に活用して、薬学臨床実習において医療現場で得られた実務経験を活かし、高度な薬剤師としての資質を体得する能力を身につける。	○			○	○				◎

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）								
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					1. 多様な社会を理解する力	2. “生きつなげる”の専門性	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力	
					知識		姿勢			行動			
		1	2	3	4	5	6	7	8				
26UPHM5203	生涯キャリアデザイン	5	薬剤師の使命や責務などの理解を深め、キャリア（生き方）を個人が主体的に考えて設計し、社会に積極的に参画する能力を身につける。	キャリアデザインが求められる社会的背景およびキャリアデザインに関する基本的な知識、教養、アプローチの方法について幅広く修得する。	◎			◎		◎			
26UPHM1401	物理化学 I	1	医薬品の体内動態や安定性を理解する際に必要な物理化学的視点を養うため、物質の基本的な性質を修得するとともに、物質の変化における速度論に関する基本的な知識を修得する。	1) 物質間の相互作用や物質と電磁波の相互作用に関する知識を身につける。 2) 物質の変化を速度論的に取り扱うために必要な知識を身につけるとともに、その検証に必要な数学的スキルを身につける。		◎			○		○		
26UPHM2402	物理化学 II	2	物質の状態を記述する関数から、その物質に生じる変化を予測するために、化学熱力学に関する基礎的な知識および技能を修得する。	1) 化学熱力学、物質の変化や溶液の性質などに関する基礎的な事柄の理論的背景を説明する。 2) 化学熱力学、物質の変化や溶液の性質などに関する基礎的な具体例について、数値の計算を行う。		◎			○		○		
26UPHM2403	物理化学 III	2	体内で起こる生理的あるいは病的現象を理解する際に必要な物理化学的視点を養うため、物質の状態や溶液および電気化学に関する基本的知識を修得する。	1) 物質の相平衡に関する知識および状態図を読み取るスキルを身につける。 2) 生体の恒常性に寄与する束一的性質等の溶液の性質に関する知識を身につけるとともに、その検証に必要な数学的スキルを身につける。 3) 電気化学に関する知識を身につける。		◎			○		○		
26UPHM1404	分析化学 I	1	化学物質を理解できるようになるために、代表的な無機化合物・錯体（医薬品を含む）の構造、性質に関する基本的事項を修得することを目的とする。また、化学物質（医薬品を含む）を適切に分析できるようになるために、化学物質の定性分析および溶液中の化学平衡に関する基本的事項を修得する。	1) 代表的な無機化合物、錯体について説明する。 2) 代表的な無機イオンおよび医薬品の定性反応を説明する。 3) 溶液中の酸・塩基平衡の概念について説明する。 4) pHおよび解離定数について説明する。 5) 溶液中の化学平衡（錯体・キレート生成平衡、沈殿平衡、酸化還元平衡、分配平衡）について説明する。		◎			○		○		
26UPHM2405	分析化学 II	2	化学物質（医薬品を含む）を適切に分析できるようになるために、化学物質の分析に用いる器具の使用法、得られる測定値の取り扱い、定量分析法および分離分析法に関する基本的事項を修得する。	1) 測定値の適切な取り扱い、分析法のバリデーションについて説明する。 2) 容量分析法（中和滴定、非水滴定、キレート滴定、沈殿滴定、酸化還元滴定）の原理、操作法および代表例を説明する。 3) 重量分析法の原理および操作法を説明する。 4) クロマトグラフィーの分離機構を説明できるとともに、薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーおよびガスクロマトグラフィーの特徴と検出法を説明する。 5) 電気泳動法の原理と応用例を説明する。		◎			○		○		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）								
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					1. 多様な社会を理解する力	2. “生き残る”につながる専門性	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力	
					知識		姿勢			行動			
1	2	3	4	5	6	7	8						
26UPHM2406	分析化学 III	2	化学物質（医薬品を含む）を適切に分析できるようになるために、機器を用いる分析法の原理とその応用に関する基本的事項とともに、臨床現場で用いる代表的な分析技術に関する基本的事項を修得する。	1) 分光分析法（紫外可視吸光度測定法、蛍光光度法、赤外吸収スペクトル測定法、ラマンスペクトル測定法、原子吸光光度法、原子発光分析法）の原理および応用例を説明する。 2) 核磁気共鳴スペクトル測定法、質量分析法、X線分析法、熱分析法の原理及および応用例を説明する。 3) 分析目的に即した試料の前処理法を説明できるとともに、臨床分析における精度管理および標準物質について説明する。 4) 臨床分析で用いられる分析法（免疫化学的測定法、酵素を用いた分析法、画像診断技術）について説明する。		◎			○			○	
26UPHM3407	薬学放射化学	3	放射線が健康に与える影響を科学的に理解するとともに、医療への応用を図るため、原子や放射線の性質、放射線の生体への影響に関する基本的事項を修得する。	1) 原子の特長を知るとともに、放射線の種類とその特長に関する知識を身につける。 2) 放射線が生体に及ぼす障害に関する知識を身につける。 3) 放射性医薬品や医療機器の原理および特長に関する知識を身につける。		◎		○					
26UPHM1408	有機化学 I	1	薬学で取り扱う医薬品や生物活性物質の大部分は有機化合物である。有機化学の知識は、有機化合物の性質や反応性を理解するために必要である。本科目では、基礎的な有機化学の知識を修得する。	1) 化学結合や軌道の混成について説明する。 2) 代表的な化合物のルイス構造式および慣用名を示すことができ、IUPAC規則に基づいて命名する。 3) 酸と塩基、および官能基が及ぼす影響について説明する。 4) アルカンやシクロアルカンの配座、および構造異性体と立体異性体について説明する。 5) 光学活性・キラリティー・エナンチオマー・ジアステレオマー・ラセミ体・メソ体・絶対配置の表示法等について説明する。		◎			○				○
26UPHM1409	有機化学 II	1	本科目では、基本的な有機化合物を炭素骨格や官能基に基づいて分類し、それぞれの構造、性質、反応性等に関する基本事項の知識を修得する。	1) 有機ハロゲン化合物の求核置換反応や脱離反応について説明する。 2) アルケンへの代表的な付加反応について説明する。 3) 共役や共鳴理論、芳香族性の概念について説明する。 4) 芳香族求電子置換反応の反応性、配向性、置換基効果について説明する。		◎			○				○
26UPHM2410	有機化学 III	2	医薬品や生体内物質の生理活性に密接に関連している有機化合物の性質を理解するため、これの特徴づけている官能基に関する基本的知識を修得し、有機化合物の物理的・化学的性質および反応性を、化合物の構造から類推する能力を身につける。	1) アルデヒド類およびケトン類の基本的性質と反応性を説明する。 2) カルボン酸およびその誘導体の基本的性質と反応性を説明する。 3) 酸性化合物の酸性度および塩基性化合物の塩基性を比較して説明する。		◎			○				○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類 (項目)								
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					1. 多様な社会を理解する力	2. “生きつなげる”の専門性	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力	
					知識		姿勢		行動				
1	2	3	4	5	6	7	8						
26UPHM2411	スペクトル構造解析演習	2	医薬品に含まれる有機化合物の品質保証にとって有機化合物の構造の解析は重要な手段の一つである。これまでに学修してきた有機化学の知識を基に、有機化合物の構造解析のための核磁気共鳴 (NMR) スペクトル、赤外吸収スペクトル (IRスペクトル)、マススペクトル (MS) などの機器分析法と、分析スペクトルから有機化合物の構造を推定するための基本的知識を修得する。	1) 有機化合物の構造解析のための機器分析法を説明する。 2) 分析スペクトルから、化合物の部分構造の推定や、候補化合物の中から選択する。 3) 複数の分析スペクトルから得られる情報を組み合わせて、構造未知化合物の部分構造の推定や、候補化合物の中から選択する。		◎		○	○			○	
26UPHM3412	医薬品化学	3	多くの医薬品は有機化合物に分類される。本科目ではこれまでに学修してきた有機化学の知識を基に、医薬品分子の化学構造からその医薬品の化学的性質や物理的性質を理解し、更に医薬品分子と生体分子との相互作用および薬理作用の発現を化学的に理解する。	1) 医薬品分子と生体分子間の相互作用を説明する。 2) 医薬品分子の化学構造から、医薬品の物理的・化学的性質を説明する。 3) 医薬品の薬理作用・代謝を化学構造に基づいて有機化学的に説明する。 4) 代表的な疾患について、各種治療薬の構造的特徴や作用機序を有機化学的に説明する。		◎			○			○	
26UPHM3413	発展有機化学	3	医薬品の多くは有機化合物であるため、薬学を学習するうえで有機化学に関する知識は必要である。本科目では、これまで学修してきた有機化合物の性質・反応性等有機化学の基本的知識を整理し、医薬品を化学的に理解する。	1) 共鳴・電子の動き、反応機構の書き方、各種化学種、軌道など有機化学の基本的事項を説明する。 2) 有機化合物を炭素骨格や官能基ごとに分類し、化合物の化学的反応性・性質を説明する。 3) 立体化学をはじめとする各種異性体について、物理的・化学的性質を説明する。 4) 有機化合物の酸性・塩基性に影響する因子について説明する。		◎			○			○	
26UPHM2414	薬用植物・生薬学	2	自然界に存在する物質を医薬品および医薬品原料として利用するために、基になる薬用植物および生薬の基原、特徴、用途および成分などの基本的事項を修得する。	1) 薬用植物に関する分類や特徴などの基本事項を説明する。 2) 生薬の種類、基原、成分、薬効・用途、確認試験などの知識を修得する。 3) 生薬の同定と品質評価法について説明する。 4) 生薬の副作用や使用上の注意を理解し、説明する。		◎			○			○	
26UPHM2415	天然物化学	2	医薬品、化粧品、機能性食品などに利用される天然有機化合物について、化学構造や生合成経路を基に分類するとともに、医薬資源としての基本的事項を学修する。	1) 代表的な天然有機化合物の生合成経路を説明する。 2) 天然有機化合物を基に開発された医薬品について説明する。 3) 天然有機化合物を基に開発された機能性食品、化粧品、農薬などについて説明する。 4) 天然物を利用した機能性を示す食品について説明する。		◎			○			○	
26UPHM1416	分子遺伝学	1	生命情報を担う遺伝子は、生命体の継承に必須であるとともに生命活動の基本となる。生命現象を理解し医療に活用するためには、生命情報に関する分子レベルの知識が必須である。そこで、遺伝子の複製および発現、それらの制御に関する基本的事項を修得する。	1) 染色体とゲノム構造、遺伝子変異と遺伝子型について説明する。 2) 遺伝子の実体であるDNAと遺伝情報発現を担うRNAの構造と機能、遺伝情報の流れとその調節機構について説明する。 3) 生命科学で汎用される遺伝子操作技術について説明する。		◎			○			○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）								
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					1. 多様な社会を理解する力	2. “生きつなげる”の専門性	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力	
					知識		姿勢			行動			
		1	2	3	4	5	6	7	8				
26UPHM1417	細胞生化学	1	生命現象を細胞レベル、分子レベルで理解できるようになるために、生命体の最小単位である細胞の成り立ちや生命現象を担う分子に関する基本的事項を修得する。	1) 細胞膜、細胞小器官、細胞骨格などの構造と機能を理解し、説明する。 2) タンパク質の生合成、翻訳後修飾、局在化および細胞内分解を理解し、説明する。 3) 細胞間コミュニケーションおよび細胞内情報伝達の方法と役割を理解し、説明する。 4) 細胞周期と分裂、細胞死を理解し、説明する。 5) 遺伝および受精を理解し、説明する。		◎		○	○	○	○		
26UPHM1418	生理・生化学	1	生命現象を細胞レベル・分子レベルで理解できるようになるために、生命現象を担う生体分子に関する基本事項を修得する。また、ヒトの身体の機能が正常に維持される仕組みを理解できるようになるために、神経系と内分泌系に関する基本事項を修得する。	1) 生命現象を担う分子であるタンパク質、糖質、脂質を列挙し、それらの基本事項を説明する。 2) 生体内化学反応を担う酵素の特性と酵素活性調節機構について説明する。 3) 神経系を構成する要素（臓器）の名称や構造と作用を理解し、神経による体の恒常性維持機構を具体的に説明する。 4) 内分泌系器官の構造と産生されるホルモンおよびその作用を理解し、ホルモンによる体の恒常性維持機構および生殖機能を説明する。		◎			○			○	
26UPHM2419	機能形態学	2	ヒトの身体の基本構造を把握し、個々の臓器の機能が統合され正常に維持される“仕組み”の基本事項を修得する。	ヒトの身体を構成する構成要素（器官系、臓器、組織、細胞）の名称や構造とその機能を結びつけて説明する。また、臓器の生理機能を一定に保つ（恒常性維持）機構（仕組み）を理解し、その仕組みを具体例をあげて説明する。		◎			○	○	○		
26UPHM2420	代謝生化学	2	細胞は生命活動を維持するために、食物成分を代謝することで産生される生体エネルギーを消費している。この仕組みを理解するために、糖質、脂質、タンパク質およびヌクレオチドの代謝に関する基本的知識を修得する。	1) 糖質、脂質、タンパク質が分解されて単純な最終生成物に変換される過程（異化）と、その過程で生体エネルギーが産生される仕組みについて説明する。 2) 生体エネルギーを消費して、単純な有機分子から糖質、脂質、アミノ酸およびヌクレオチドなどの複雑な分子が組み立てられる過程（同化）について説明する。 3) 細胞および個体レベルでの代謝調節の仕組みについて説明する。		◎			○			○	
26UPHM2421	微生物学	2	感染症と私たちの関わりは、健康・医療のみならず、社会・経済活動にまで影響の及ぶ重要な問題である。この科目では、感染症の原因である病原体のヒト生体内環境への適応や増殖・複製を理解し、感染症の発症とその予防・治療を学修するための基盤を形成するために、原核生物である細菌を軸として、ウイルス、真菌、寄生虫などの微生物の共通性および特殊性の基本事項を修得する。	1) 原核生物、真核生物およびウイルスの基本構造の違いを説明する。 2) 細菌の細胞構造とグラム染色性（グラム陽性菌・陰性菌）について説明する。 3) 細菌の分裂、増殖、進化の機構を説明する。 4) 代表的な病原体（細菌、ウイルス、真菌、寄生虫）について、基本的な特徴を説明する。		◎			○			○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）							
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1. 多様な社会を理解する力	2. “生き残る”ための専門性	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力
					知識		姿勢			行動		
		1	2	3	4	5	6	7	8			
26UPHM2422	免疫学	2	炎症やアレルギーおよび感染症等の免疫に関連する病態を学ぶ基盤とするため、免疫反応による生体防御機構とその破綻に関する基本的事項を修得する。	1) リンパ系など免疫関連の器官や組織の構造と機能を理解し、説明する。 2) 免疫担当細胞や免疫分子による免疫応答を理解し、説明する。 3) 免疫応答の制御とその破綻、および免疫反応の臨床応用を理解し、説明する。		◎		○	○	○	○	
26UPHM5423	生体恒常性のメカニズム	5	生体は内的、外的要因に対応して、恒常性を維持している。本科目では、機能形態学、生化学、代謝生化学、細胞生化学、免疫学などの基礎知識を統合し、恒常性維持のメカニズムを多面的に理解し、修得する。	恒常性維持の機構や生理応答、それらの調節系の破綻と疾患の関連性について、多面的に分子レベルから全身レベルまでを統合して理解し、説明する。		◎		○	○	○	○	
26UPHM1424	薬学基礎演習 A	1	薬学は化学、生物、物理等に基礎を置く学際領域の学問であり、上級学年に受講する専門教育科目を理解するためには、しっかりした自然科学の基礎知識が必要となる。本演習では、薬学専門領域を学ぶために必要な基本的な知識を修得する。	同時期に開講されている講義科目について演習を行い、実際に練習問題、応用問題に解答することで理解度をアップさせる。演習にはSGDの機会を設け、学生のコミュニケーション能力の向上を目指し、すべての科目で課題として出された演習問題をすべて解き、内容を理解する。		◎			○			○
26UPHM1425	薬学基礎演習 B	1	薬学は化学、生物、物理等に基礎を置く学際領域の学問であり、上級学年に受講する専門教育科目を理解するためには、しっかりした自然科学の基礎知識が必要となる。本演習では、薬学専門領域を学ぶために必要な基本的な知識を修得する。	同時期に開講されている講義科目について演習を行い、実際に練習問題、応用問題に解答することで理解度をアップさせる。演習にはSGDの機会を設け、学生のコミュニケーション能力の向上を目指し、すべての科目で課題として出された演習問題をすべて解き、内容を理解する。		◎			○			○
26UPHM1426	薬学基礎演習 C	1	薬学は化学、生物、物理等に基礎を置く学際領域の学問であり、上級学年に受講する専門教育科目を理解するためには、しっかりした自然科学の基礎知識が必要となる。本演習では、薬学専門領域を学ぶために必要な基本的な知識を修得する。	同時期に開講されている講義科目について演習を行い、実際に練習問題、応用問題に解答することで理解度をアップさせる。すべての科目で課題として出された演習問題をすべて解き、内容を理解する。		◎			○			○
26UPHM1427	薬学基礎演習 D	1	薬学は化学、生物、物理等に基礎を置く学際領域の学問であり、上級学年に受講する専門教育科目を理解するためには、しっかりした自然科学の基礎知識が必要となる。本演習では、薬学専門領域を学ぶために必要な基本的な知識を修得する。	同時期に開講されている講義科目について演習を行い、実際に練習問題、応用問題に解答することで理解度をアップさせる。すべての科目で課題として出された演習問題をすべて解き、内容を理解する。		◎			○			○
26UPHM2428	薬学基礎演習 E	2	薬学は化学、生物、物理等に基礎を置く学際領域の学問であり、上級学年に受講する専門教育科目を理解するためには、しっかりした自然科学の基礎知識が必要となる。本演習では、薬学専門領域を学ぶために必要な基本的な知識を修得する。	同時期に開講されている講義科目について演習を行い、実際に練習問題、応用問題に解答することで理解度をアップさせる。すべての科目で課題として出された演習問題をすべて解き、内容を理解する。		◎			○			○
26UPHM2429	薬学基礎演習 F	2	薬学は化学、生物、物理等に基礎を置く学際領域の学問であり、上級学年に受講する専門教育科目を理解するためには、しっかりした自然科学の基礎知識が必要となる。本演習では、薬学専門領域を学ぶために必要な基本的な知識を修得する。	同時期に開講されている講義科目について演習を行い、実際に練習問題、応用問題に解答することで理解度をアップさせる。すべての科目で課題として出された演習問題をすべて解き、内容を理解する。		◎			○			○



科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）							
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1. 多様な社会を理解する力	2. “生きること”につながる専門性	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力
					知識		姿勢			行動		
		1	2	3	4	5	6	7	8			
26UPHM2503	基礎薬理学 I	2	薬の効くプロセスを学修するうえで必要な薬物の作用発現にかかわる基本原則を修得する。	1) 作用部位に達した薬物の量と作用により薬効が決まることを理解するために、薬物の生体内における動きと作用に関する基本的知識を身につける。 2) 末梢神経系に作用する様々な医薬品について、多面的視点から薬理作用（主・副作用）を説明する。		◎			○	○	○	
26UPHM2504	基礎薬理学 II	2	医薬品が作用するプロセスを分子レベルから生体レベルにわたって総合的に理解し、その知識を応用する力を養う。	薬物の作用機序を分子レベルおよび細胞・組織レベルで理解し、医薬品が生体にどのように作用するかということ、末梢神経作用薬を教材にして総合的に理解する。さらに薬物治療に応用する。		◎			○	○	○	
26UPHM3505	臨床薬理学 A	3	科学的な根拠に基づき、心臓・血管系（血圧）、泌尿器系、呼吸器系および血液系に作用する様々な医薬品の適応とその根拠、使用方法を修得する。	心臓・血管系（血圧）、泌尿器系、呼吸器系および血液系に作用する様々な医薬品について、多面的視点から薬理作用（主・副作用）を説明する。		◎			○	○	○	
26UPHM3506	臨床薬理学 B	3	科学的な根拠に基づき、消化器系、代謝系および内分泌系に作用する様々な医薬品の適応とその根拠、使用方法を修得する。	消化器系、代謝系および内分泌系に作用する様々な医薬品について、多面的視点から薬理作用（主・副作用）を説明する。		◎			○	○	○	
26UPHM3507	臨床薬理学 C	3	科学的な根拠に基づき、中枢神経系、免疫系、皮膚などの感覚系、その他、鎮痛作用を有する様々な医薬品の適応とその根拠、使用方法を修得する。	中枢神経系、免疫系、皮膚などの感覚系、その他、鎮痛作用を有する様々な医薬品について、多面的視点から薬理作用（主・副作用）を説明する。		◎			○	○	○	
26UPHM4508	臨床薬理学 D	4	科学的な根拠に基づき、様々な医薬品の適応とその根拠、使用方法を修得する。	1) 感染症に用いる治療薬について、その感染微生物の性質や病態等と関連付けて、作用機序・特徴・使用上の注意などについて説明する。 2) がんに用いる治療薬について、その病態生理等と関連付けて、作用機序・特徴・使用上の注意などについて説明する。		◎			○	○		
26UPHM6509	疾患からみた薬理学	6	解剖学および生理学を踏まえ、臨床に近い視点から、医薬品とその薬理作用を精査し、薬物治療を成功に導くための病態分析と、薬効を評価する知識・技能を修得する。	1) 様々な医薬品の効果について、俯瞰的・多面的視点からその薬理作用を分析する。 2) 病態の重症度、進行度を解析し、それらに応じて適切な治療薬を選択する。 3) 治療薬の薬理作用を踏まえた上で、治療効果や副作用を適切に評価する。		◎			○	○		
26UPHM3510	薬物動態学 I	3	患者に応じた医薬品の適正使用を実践するため、薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）に関する基本的事項を修得する。	1) 生体膜透過機構を理解し、薬物の特徴に応じて体内動態を説明する。 2) 薬物動態に起因する薬物相互作用を説明する。 3) 患者の状態（年齢、遺伝的因子、疾患）から、薬物動態を予測する。		◎		○	○	○	○	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）															
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目															
					1. 多様な社会を理解する力		2. “生き残る”に つながる専門性		3. 自他を尊重する姿勢		4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢		5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢		6. 論理的に考え伝える力		7. 新たな価値を創造する力		8. 多様な人々と協働する力	
					知識		姿勢		行動											
1		2		3		4		5		6		7		8						
26UPHM3511	薬物動態学Ⅱ	3	薬物の体内動態を定量的に解析し、患者に応じた最適な薬物投与設計を立案するのに必要な基本的事項を修得する。	1) 薬物動態の解析に関する代表的なモデルを説明する。 2) 血中薬物濃度のデータから薬物動態パラメータを算出する。 3) 治療薬物モニタリング (TDM) の意義と測定法を説明する。 4) 薬物動態パラメータを用いて、患者の状態を考慮した薬物投与設計を行う。		◎		○	○	○	○	○	○	○	○					
26UPHM3512	臨床統計学Ⅰ	3	薬物の治療や効果に関するデータを正確に解釈し、活用するのに必要な生物統計学の基礎的な知識と技能を修得する。	薬物治療や医薬品開発において、疾患・薬効に関するデータや臨床試験データを適切に解析するために必要な統計学的な考え方、データの特徴に応じた解析方法を、実際の事例を通して理解する。		◎		○	○	○	○	○	○	○	○					
26UPHM4513	臨床統計学Ⅱ	4	科学的根拠に基づく医療 (Evidence Based Medicine; EBM) の実践に対して生物統計学を活用するための基礎的な知識と技能を修得する。	医薬品の開発から薬物治療に至る各過程において、より有効で安全な治療や予防実現に向けたアプローチの考案・実行に必要な臨床試験の研究手法と統計解析法を理解する。		◎		○	○	○	○	○	○	○	○					
26UPHM3514	物理薬剤学	3	代表的な製剤材料の種類 (固形材料、半固形材料、液状材料、分散系材料) と物性に関する基本的理論、薬物の安定性 (反応速度、複合反応等) に対する影響因子と、安定化のための製剤技術を理解することで、薬物治療において患者に適切な製剤を提供するための基本的知識を身につける。	1) 固形製剤、半固形製剤、液状製剤など、様々な製剤を作成するために必要な製剤材料の種類と物性と関連する基本的理論について説明する。 2) 製剤の調製に際して、薬物および医薬品の安定性等を保証するための適切な方策について説明する。		◎			○	○										
26UPHM3515	製剤学	3	日本薬局方製剤総則に示された製剤の種類と特性、投与 (適用) 方法、保存方法等を理解し、薬物の製剤化に必要な代表的な医薬品添加物、製剤機械および製造工程や、製剤の品質確保のための製剤試験法、更に医薬品の容器、包装の種類や特徴、製剤間での生物学的同等性の保証を理解する。また、DDSの概念とDDSの応用に適した薬物、さらに様々なDDSの特徴を理解して薬物治療に有効なDDSの選択、新たなDDSの開発につながる理論を身につける。	1) 製剤の種類と特性、および製剤の投与 (適用) 方法、保存方法等を理解し説明する。 2) 医薬品添加物や、製剤機械および製造工程、また製剤の品質確保のための容器、包装、製剤試験法、生物学的同等性について説明する。 3) DDSの概念と技術、薬物の物性や薬物動態学的特徴に基づいたDDSの利用について説明する。		◎			○	○										
26UPHM3516	薬物代謝論	3	代謝および代謝における薬物動態学的相互作用を中心として、薬物の生体内運命を総合的に理解し、薬物の有効性、毒性発現、安全性に関する基本的事項を修得する。	1) 薬物代謝に関わる代表的な酵素とその反応機構を説明する。 2) 薬物代謝の変動要因を説明する。 3) 薬物代謝と毒性発現の関連を説明する。 4) 代謝から薬物の体内動態を予測し、患者に最適な薬の選択と投与量を設定する。		◎		○	○	○	○	○	○	○	○					
26UPHM4517	薬物送達システム学	4	物理薬剤学で修得した製剤材料の物性と製剤化の理論および製剤学で修得した製剤の特性・DDSの理論を元に、適切な調剤方法や、患者に説明すべき事項、薬物治療において患者に適切な製剤・DDSを提案するなどの実践力を修得する。	1) 薬物の物性や薬物動態学的特徴に基づいたDDSの利用について説明する。 2) DDS製剤とその適用疾患を理解することで、患者の薬物治療に有効なDDSを提案する。		◎			○	○										

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）								
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					知識		姿勢			行動			
					1	2	3	4	5	6	7	8	
26UPHM3518	病態・薬物治療 A	3	循環器疾患および神経系疾患の病態、治療薬の薬理、臨床応用を含めた薬物治療について正しく理解し、患者の病態に応じた適切な薬物療法を実践するための基本的な知識を修得する。	1) 循環器疾患の病態、治療薬の薬理、臨床応用を含めた薬物治療について説明する。 2) 神経系疾患の病態、治療薬の薬理、臨床応用を含めた薬物治療について説明する。		◎				○	○		
26UPHM3519	病態・薬物治療 B	3	泌尿器系疾患、呼吸器系疾患および血液疾患の病態、治療薬の薬理、臨床応用を含めた薬物治療について正しく理解し、患者の病態に応じた適切な薬物療法を実践するための基本的な知識を修得する。	1) 泌尿器系疾患の病態、治療薬の薬理、臨床応用を含めた薬物治療について説明する。 2) 呼吸器系疾患の病態、治療薬の薬理、臨床応用を含めた薬物治療について説明する。 3) 血液疾患の病態、治療薬の薬理、臨床応用を含めた薬物治療について説明する。		◎				○	○		
26UPHM3520	病態・薬物治療 C	3	消化器系疾患、アレルギー・免疫疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、生殖器疾患および皮膚疾患の病態、治療薬の薬理、臨床応用を含めた薬物治療について正しく理解し、患者の病態に応じた適切な薬物療法を実践するための基本的な知識を修得する。	1) 消化器系疾患の病態、治療薬の薬理、臨床応用を含めた薬物治療について説明する。 2) アレルギー・免疫疾患の病態、治療薬の薬理、臨床応用を含めた薬物治療について説明する。 3) 眼疾患、耳鼻咽喉疾患、皮膚の病態、治療薬の薬理、臨床応用を含めた薬物治療について説明する。 4) 生殖器系疾患の病態、治療薬の薬理、臨床応用を含めた薬物治療について説明する。		◎				○	○		
26UPHM3521	病態・薬物治療 D	3	代謝性疾患、内分泌系疾患、骨・関節疾患および悪性腫瘍の病態、治療薬の薬理、臨床応用を含めた薬物治療について正しく理解し、患者の病態に応じた適切な薬物療法を実践するための基本的な知識を修得する。	1) 代謝性疾患の病態、治療薬の薬理、臨床応用を含めた薬物治療について説明する。 2) 内分泌系疾患の病態、治療薬の薬理、臨床応用を含めた薬物治療について説明する。 3) 骨・関節疾患の病態、治療薬の薬理、臨床応用を含めた薬物治療について説明する。 4) 悪性腫瘍の病態、治療薬の薬理、臨床応用を含めた薬物治療について説明する。		◎				○	○		
26UPHM4522	医薬品情報学	4	医薬品に関する情報の全体像を把握するとともに、患者基本情報とその情報源を把握し、医薬品の適正使用に必要な情報を理解する。	薬物治療に必要な様々な情報を適切に収集、評価、加工、管理し、これを医療チームや患者に対して過不足なく的確に提供するために必要な基本的知識を修得する。	○	◎	◎				◎		
26UPHM4523	漢方治療学	4	漢方医学の理論を理解し、漢方薬を用いた薬物療法を実践するための知識を修得する。	1) 漢方薬処方への適応となる証、症状や疾患について説明する。 2) 配合生薬の組み合わせを基に、漢方薬を症状や疾患に適応する根拠を説明する。 3) 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して、説明する。		◎					◎		
26UPHM5524	化粧品学概論	5	薬剤師に必要な化粧品に関する正しい知識を修得する。	1) 化粧品と医薬品との違いを、その役割、法律における定義などの点から理解し説明する。 2) 化粧品と皮膚・毛髪の間わりについて理解し説明する。 3) 化粧品に必要な品質、効果などの特性について理解し説明する。 4) 医療における化粧品の役割を理解し説明する。		◎							

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）									
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 多様な社会を理解する力	2. “生き残る”につながる専門性	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力		
					知識		姿勢			行動				
1	2	3	4	5	6	7	8							
26UPHM4704	薬学臨床実習概論	4	処方箋に基づいた調剤、薬物治療の実践、多職種連携における薬剤師の貢献、医療マネジメント・医療安全の実践、地域医療・公衆衛生への貢献、臨床で求められる基本的な能力について、幅広い知識を修得する。（本科目は、「薬学臨床基本実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を補完する科目である。）	1) 処方箋に記載すべき事項・内容と調剤に関する基本的事項を理解する。 2) 医薬品の供給・管理、特別な配慮を要する医薬品（毒薬、劇薬等）の管理と取扱いを理解する。 3) 市販されている医薬品では対応できない場合の医薬品の調製、使用、品質管理等について説明する。 4) 感染制御に必要な予防策を理解する。 5) 治療薬物モニタリング実施に必要な知識を身につける。 6) 輸液・電解質管理、栄養管理に必要な知識を身につける。		◎				◎			○	
26UPHM4525	統合型症例・処方解析Ⅰ	4	基礎薬学および医療薬学で身につけた知識・技能を、臨床模擬症例を基にした学修で統合させ、実務実習における個別最適化した薬物治療を行う実践的な能力を育成するための基盤を形成する。	1) 臨床症例を基に基礎薬学および医療薬学の知識・技能を統合して、実臨床に活かすための応用力を身につける。 2) 個々の患者の状態や背景から薬理・病態・薬物治療の全体像を把握する。 3) 各種疾病に対する処方の意図や医薬品の適切な使用方法、服薬指導時の留意点について根拠に基づいて討論し、説明する。 4) 個別の症例に対する最適薬物治療について、根拠に基づいて討論し、処方提案する。		◎	○	○		◎			○	
26UPHM4705	統合型症例・処方解析Ⅱ	4	基礎薬学および医療薬学で身につけた知識・技能を、臨床模擬症例を基にした学修で統合させ、実務実習における個別最適化した薬物治療を行う実践的な能力を育成するための基盤を形成する。	1) 臨床症例を基に基礎薬学および医療薬学の知識・技能を統合して、実臨床に生かすための応用力を身につける。 2) 個々の患者の状態や背景から薬理・病態・薬物治療の全体像を把握する。 3) 各種疾病に対する処方の意図や医薬品の適切な使用方法、服薬指導時の留意点について根拠に基づいて討論し、説明する。 4) 個別の症例に対する最適薬物治療について、根拠に基づいて討論し、処方提案する。		◎	○	○		◎			○	
26UPHM4706	薬剤師の臨床判断Ⅰ	4	患者背景または処方内容を適切に把握し、疾患や病状を推測したうえで患者に応じた適切な対応や指導ができる知識・考え方を修得する。	1) 患者に応じた適切な薬学的介入の方法を提案する。 2) 薬物治療を有効かつ安全に実施するために、根拠に基づいた方法や対応を提案する。	○	◎	○	○		◎				
26UPHM5707	薬剤師の臨床判断Ⅱ	5	患者背景または処方内容を適切に把握し、疾患や病状を推測したうえで患者に応じた適切な対応や指導ができる知識・考え方を修得する。	1) 患者に応じた適切な薬学的介入の方法を提案する。 2) 薬物治療を有効かつ安全に実施するために、根拠に基づいた方法や対応を提案する。	○	◎	○	○		◎				
26UPHM5708	セルフメディケーション	5	一般用医薬品の適正使用に向けての薬局・薬剤師の役割、位置付けを理解し、実践するための知識を修得する。また、製造業において研究・開発に携わる場合も、一般用医薬品に関する事項を把握する。	1) 一般用医薬品に関連する法令の内容を説明する。 2) 地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議する。 3) おもな一般用医薬品を列挙し、使用目的を説明する。		◎				◎				○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）							
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1. 多様な社会を理解する力	2. “生き残る”につながる専門性	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力
					知識		姿勢			行動		
		1	2	3	4	5	6	7	8			
26UPHM4709	臨床薬学基本実習Ⅰ	4	「薬学臨床実習」に先立ち、処方箋に基づいた調剤、薬物治療の実践、多職種連携における薬剤師の貢献など、薬剤師として臨床で求められる基本的な能力を修得する。（本科目は、「臨床薬学基本実習Ⅱ・Ⅲ」を補完するものである。）	1) 処方監査、薬剤の調製、患者対応、服薬指導、疑義照会など薬学的管理を実践する上での基本的業務について理解し、シミュレーションする。 2) 薬物療法、チーム医療、地域医療へ貢献について根拠に基づいて討論する。	○	○	◎	○	○	◎	○	◎
26UPHM4710	臨床薬学基本実習Ⅱ	4	「薬学臨床実習」に先立ち、処方箋に基づいた調剤、薬物治療の実践、多職種連携における薬剤師の貢献など、薬剤師として臨床で求められる基本的な能力を修得する。（本科目は、「臨床薬学基本実習Ⅰ・Ⅲ」を補完するものである。）	1) 処方監査、薬剤の調製、患者対応、服薬指導、疑義照会など薬学的管理を実践する上での基本的業務について理解し、シミュレーションする。 2) 薬物療法、チーム医療、地域医療へ貢献について根拠に基づいて討論する。	○	○	◎	○	○	◎	◎	◎
26UPHM4711	臨床薬学基本実習Ⅲ	4	長期実務実習に先立ち、コミュニケーション（初回面談および服薬指導）、バイタルサイン・フィジカルアセスメントの基礎、治療上患者に必要な手技の説明、症例検討による薬物治療の理解などについて基本的な知識・技能・態度を修得する。（本科目は、「臨床薬学基本実習Ⅰ・Ⅱ」を補完するものである。）	1) 患者情報を適切に収集、評価し、状態を把握したうえで患者教育や服薬指導を実践する。 2) 薬学的管理に必要なフィジカルアセスメントを実践する。 3) 患者の治療に必要な様々な機器の使用法について説明する。 4) 症例を通じて患者の状態を把握し、薬物治療の有効性や安全性を評価し、最適化するための計画立案を行う。	○	○	◎	○	○	◎	○	◎
26UPHM4712	臨床実習入門講義	4	「薬学臨床実習」の直前学習として、チーム医療を含めた薬物療法全般における病院薬剤師業務を理解するとともに、薬局や地域における薬局薬剤師の使命や業務を理解する。	病院や薬局、地域における実践的な薬剤師業務を説明するとともに、業務を行う上で必要な医療倫理について説明する。	○	◎	◎	○		○	○	○
26UPHM5713	薬学臨床実習	5	実務実習を通じて、薬学臨床の基礎を十分に学習し、処方箋に基づく調剤、代表的疾患の薬物療法の実践、チーム医療への参画、地域の保健・医療・福祉へ参画など、幅広い薬剤業務を実践するために必要な知識・技能・態度を修得する。	1) 実務実習にふさわしい心構えを持ち、処方箋に基づく調剤・疑義照会、服薬指導、患者対応・教育、医薬品（麻薬・向精神、特性生物由来製品）の管理、抗悪性腫瘍薬や各種注射剤の調製を行う。 2) 患者状況にあわせた処方提案やチーム医療・地域（在宅）医療へ積極的に貢献する。	○	○	◎	○	○	◎	◎	◎
26UPHM5714	臨床実習後演習	5	臨床実習で学んだことを振り返り総括するとともに、自身の経験を大学において他者と互いに共有する。これにより、臨床実習での個別事象の学びを一般的に理解し、個別最適化した薬物療法を実践するために必要な課題を発見し、解決策を導く力を身につける。	1) 臨床実習での学びを基に、与えられた模擬症例などに対して、個別最適化した薬物療法を実践する。 2) 患者のニーズを把握し、患者にとって効果的な情報提供を行う。 3) 自らが臨床実習で経験した内容で、効果的であったこと、改善が必要であったことなどを大学内で互いに共有し、個別最適化した薬物療法の実践について討論する。	○	○	○	○	○	◎	◎	◎

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	学科ディプロマ・ポリシーの分類（項目）									
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 多様な社会を理解する力		2. “生きつなげる専門性”に尊重する姿勢		3. 自他を恐れず挑戦する姿勢		4. 失敗を恐れない姿勢		5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	
					知識	知識	姿勢	姿勢	行動	行動	行動	行動		
1	2	3	4	5	6	7	8							
26UPHM2801	薬学基礎実習 A	2	医薬品を含む目的化合物への化学変換を自分自身の手で実施するために、これまでに習った有機化学の理論・法則・反応などを理解し、有機合成反応の基本的知識、技能、態度を修得する。化学実験の基本操作を修得する。すなわち、実験器具の名称、使用方法について学び、実験器具を正しく選択して装置を組み立てる。併せて、実験を通して実際に化学物質に触れ、化学的あるいは物理的性質を知り化学物質の正しい取り扱い方法を学ぶ。	有機化合物の代表的な反応、分離法、構造決定法などについての基本的知識を整理し、それらを実施するための基本的技能を修得する。課題となる有機反応に関して、有機化学の講義による知識と実験操作に関する知識を活用して実験計画を立て、自ら実験装置を組み立てて反応を実施する。得られた結果をまとめ、化学的に考察する。		◎		○	○	○	◎			
26UPHM2802	薬学基礎実習 B	2	実験を通して化学物質の物理化学的性質に関する理解を深め、物理化学的性質を解析するための技能を修得する。	1) 薬学および生命科学に関係する化学物質の物理化学的性質を測定する。 2) 薬学および生命科学に関係する化学物質の物理化学的性質の測定データを解析し、論理的に考察する。		◎			◎	○	◎			
26UPHM3803	薬学基礎実習 C	3	自然界に存在する物質を医薬品として利用できるようになるために、基になる薬用植物や生薬、それらの活性物質の取り扱いを修得する。また、生体の構造とその機能調節の仕組みを統合的に学修し、生命に対する倫理的な姿勢を養う。	1) 代表的な薬用植物の特徴を理解し、分類や利用法について説明する。 2) 代表的な生薬について、基原、特徴、成分、確認試験法等を用いた同定や品質評価を説明する。 3) 天然有機化合物の抽出および分離精製法を説明する。 4) 複数の機器分析法を組み合わせた天然物の構造解析例を説明する。 5) 生体を構成する器官の立体的位置関係を把握し、その構造と組織・細胞を関連づけて説明する。 6) 器官の生理的機能について、生体における役割と調節機構を体系的に説明する。		◎		○	◎	○	◎			
26UPHM3804	薬学基礎実習 D	3	化学物質（医薬品を含む）を適切に分析できるようになるために、分析器具の取り扱い方法、化学物質の定性分析法、定量分析法および分離分析法の技能を修得するとともに、臨床現場で用いる分析技術を応用するための技能を修得する。また、生命現象を細胞や分子レベルで理解するために、実験を通して生体構成分子や免疫反応の基本事項を修得する。	1) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施する。 2) 溶液のpHを測定するとともに、緩衝液を調製する。 3) 日本薬局方収載の代表的な医薬品のクロマトグラフィーによる定性・定量を行う。 4) 生体構成分子の定性または定量試験を実施する。 5) 酵素反応速度を測定し、解析する。 6) 抗原抗体反応を利用した検査方法を実施する。		◎			◎	○	◎			
26UPHM3805	薬学基礎実習 E	3	薬剤師および薬学系業務等を行う上で必要な、基本的な微生物の取り扱い方法を身につける。また、製剤化の方法と意義、薬物動態の理論的解析と投与設計に関する基礎的スキルを修得する。	基本的な微生物の取り扱い方法として、無菌操作、微生物の培養およびグラム染色等の技能を身につける。また、製剤化の意義と製剤の性質を理解するために、薬物と製剤材料の物性、製剤設計、薬物の体内動態およびその解析に関する基本的知識を応用する技能を身につける。		◎		○	◎	○	◎			

